

2013/8

リサーチ

No.118

通巻
175

平成25年8月7日

発行者
北海道公民館協会
会長 松藤藤吉
〒060-0002 札幌市中央区北2西7
かでる2・7 (9F)
道立生涯学習推進センター内
011(271)2825

失敗から学ぶ公民館活動

失敗は成功の母

北海道公民館協会 会長 松藤藤吉



今年、不順なスタートとなりましたが、これから北海道らしいさわやかな夏になってほしいものです。

去る六月四日、全国公民館連合会総会が東京で開催され、北海道公民館協会からも全国の会員県連、関係者の皆さまに十月に開催される全国公民館研究会inふらの北海道の盛会を呼びかけてきました。

■さて、月刊公民館六月号の特集は「失敗から学ぶ公民館活動」でした。月刊公民館の実践事例をはじめ、公民館研究会等の実践発表では、「成功事例」が語られることがほとんどですが、「失敗事例」を特集に企画したのは、ロボンプスの卵のようでも興味深く読ませてもらいました。

「雨続きだったキャンプ」「かき氷器が動かない!」「見る人より、

出演者が多かったイベント」「講師が来なかつた日」など、公民館事業の経験がなくとも、読む前に何がおきたのか容易に推察できるところです。また、「職員間の意思疎通不足」

「講座は誰のもの」「公民館職員の仕事はパソコン?」などは、公民館職員論でもあり、公民館の原点に関わる提言であったと思います。「失敗事例」と言いながら、いづれも真剣に事業に取り組んだ過程、結果であろうと思います。

失敗は成功の母とあらためて思った次第です。

■負けに不思議の負けなし——野村克也

成功と失敗は、スポーツの世界では勝ち負けに通じるかも知れません。「負けに不思議の負けなし」、この言葉は「負けるときには、何の理由もなく負けるわけではない、その試合中に何かに負ける要素がある。勝ったときでも、何かに負けにつな

がる要素があった」という意味でしょう。試合に勝つためには、事業に成功するためには、負ける要素が何だったか、失敗の要素は何だったか、どうしたらその要素を消せるのかを考えて行く必要がある。これは、万事に通じることだと思います。

■人生最大の敵それは「鈍感」である——これも野村克也

公民館の事業にかぎらず、社会全般に目を向ければ何かと成功と失敗、勝ちと負けに結果集約されていきますが「失敗事例」では皆真剣に考えてのことであり、「鈍感」どころか「鋭敏」であったと思います。これから「失敗体験」を募集し、いづれ一冊のハンドブックにまとめる計画とか。大いに期待している所です。また、あわせて全国公民館研究会inふらの北海道の成功を期待してまいります、ご支援よろしくお願いたします。



「日常が主戦場」

公益社団法人全国公民館連合会

会長 鹿熊久三

今年度は文部科学省で「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」が実施されています。

「国からのカネ」というものには、幾ばくかの想いがある方も少なくないとは承知しておりますが、このような申請形式の事務を行うことによつて、社会教育を首長や議会へアピールするために必要な「気付き」のきっかけにもなるため、本連合会としても積極的な参加を促してきたところではあります。

また、今回の事業は五つの内容で「若者の自立・社会参画支援」「地域の防災拠点形成支援」「地域人材による家庭支援」「地域振興支援」「その他地域の教育的資源を活用した地域課題解決支援」と設定してあります。これは裏を返せば「なんでもあり」という地域における多種多様な課題に対して、広範囲にわたり

活用できることとなります。

この事業も、国の財源が厳しい中で、大きな壁を乗り越えて措置された予算です。公民館関係者として、このような形で予算措置が実現したことは非常に嬉しく思うと同時に、この事業を成功させなければならぬと強く思うところです。

さて、文部科学省では生涯学習政策局でメールマガジン「マナビー・メールマガジン」を発行しています。これは二週間に一度程度、登録したメールアドレスに送られてきます。実は全国公民館連合会も寄稿しており、是非登録をして、旬な情報をお役立ていただければ幸いです。

最新号に寄せたものをご紹介します。

「テレビをみながら社会教育」

「複雑に入り組んだ現代社会に鋭いメスを入れ、様々な謎や疑問を徹底的に究明する・・・」でお馴染みのテレビ番組「探偵！ナイトスクープ！」(朝日放送)で「公園の遊具(スカイランナー)をちゃんとできる人を見てみたい」という高校生の依頼を見ていました。まず、依頼者の母親と調査員が挑

戦したところ、依頼者の言うとおり半分くらいまで進むもののそれ以降は前に進まない。次に「腹筋」や「腰の動き」などが重要であるとの仮説のもと、助っ人二人を呼んでも成功しない。最後は市の公園を管理する部署に連絡して攻略法を聞いて再度挑戦。その結果、めでたく成功に至って、学校から帰ってきた依頼者にやってみせるといふもの。一連のやりとりをみていて、なんとなく社会教育の基本形を見た気がします。

この撮影の舞台は愛媛県新居浜市。新居浜市は全国でも有数の社会教育が充実した地域です。この番組で公園に集まって「あーでもない、こーでもない」と前向きに解決策を考えて成功に向けて取り組んで、最後に全員の笑顔で締めくくった大人たちの姿をみて、新居浜市総合政策課長(当時)の関福生氏が月刊誌の「社会教育」に寄稿した「幸民館」への想いが浮かんできました。

☆☆☆

「公民」が集い、育っていけば結果的にみんなが幸せになるということである。しかし、「幸せ」には発達段階があって、赤ちゃんの時の「してもらえる幸せ」、子どもの時の「自分でできる幸せ」、大人になつての「誰かにしてあげられる幸せ」、

さらには「他人の幸せを、我が事に感じさせる幸せ」の域に階段を一步登っていくことができれば公民館の究極の理想に近づくのではと思うのだ。私も今後ずっと、公民館というすばらしい場所で、みんなと一緒に「幸民館」活動に励んでいきたい。(財団法人日本青年館発行「社会教育」No.798(平成24年12月号)「公民館の理想の姿は『幸民館』なんだよね。」より)

☆☆☆

さて、本連合会発行の月刊公民館八月号では「人がつながる地域づくり」を特集します。地域社会の根源である人と人との繋がり。公民館の事例と一緒に現在、我が業界で話題沸騰中の「コミュニティデザイナー」である山崎亮さんのインタビュー記事が掲載される予定です。是非これを機会に月刊公民館をお求めいただければ幸いです。

~~~~~

一言で表現すると「社会教育は日常であり、日常は多岐にわたり、軽重問わず存在する」です。聖域なき教育が社会教育であり、担当者の手に余る案件であれば専門部署の担当者を引っ張りこんで企画するところに公民館の醍醐味があると信じています。

## 平成二十五年定期総会報告

去る四月二十五日、札幌市かでの2・7において、平成二十五年定期総会を開催いたしました。

来賓として北海道教育庁生涯学習推進局 山田局長のご臨席を賜り、祝辞をいただきました。総会議長には浦幌町中央公民館館長の佐藤氏を選出し、審議では、報告事項三件、議案四件を提案し、それぞれ承認されました。

本年度は、十月一七日・一八日に第三十五回全国公民館研究会を富良野市において開催いたします。全国の公民館関係者が一堂に会する場となります。道内からも公民館関係者を始め多数の参加を期待するところです。

## 【報告事項の概要】

報告第一号では、「平成二十四年度事業報告」をいたしました。

第五十六回北海道公民館大会兼全国公民館連合会北海道ブロック大会は、壮瞥町で開催しました。大会テーマは「生涯学習における公民館

事業のあり方」～地域資源を生かした防災教育の取組～」で、和歌山大学教授（現文科省学校運営支援企画官）の出口寿久氏による講演のあと、パネルディスカッション、グループ熟議を行いました。二日目は北大名誉教授の岡田 弘氏より「地域防災と公民館の果たす役割について」と題して記念講演がありました。

また、公民館職員の資質向上を図るために、三回目となる全道規模の「職員研修会」を開催しました。

「新しい公共 既成概念を超えた公民館」～公民館ってなんのためにあるのだろう～」のテーマによるパネルディスカッション、道教委からの行政説明、グループ熟議、シンポジウムを実施いたしました。今後も、公民館職員として必要な知識・技能を身につけ、実践に役立つ内容により研修会を開催してまいります。

報告第二号では「決算報告」を、第三号では「監査報告」を行い、全提案どおり承認されました。

## 【議案の概要】

議案第一号「平成二十五年活動

方針（案）」、議案第二号「事業計画（案）」では、平成二十五年活動方針に基づき、本年度富良野市で開催します「第三十五回全国公民館研究集会」について、全道からの参加を確認いたしました。

議案第三号「収支予算（案）」の一般会計・特別会計予算は、提案どおり承認されました。

議案第四号では役員改選を議題とし、今年度が役員改選期にあたりますので、会長には松藤氏を再任し、他の役員については各ブロックからの推薦により新役員名を事務局より提案し、承認されました。

## 全道公民館職員研修会終了

「全道公民館職員研修会」を七月五日にかでの2・7で開催し、「地域と共にある公民館」をテーマに、全道の公民館関係者三十八名が参加し、熱心に研修しました。

開会行事の後、道教委生涯学習課 西山主幹より、道教委の施策である①学力・体力向上の運動 ②通学合宿 ③生活リズムチェックシート

の活用 ④「親力」つむぎ事業 について行政説明がありました。続いて講演①として札幌市幌西小学校 新保元康校長先生より「なぜ、学校に地域力が必要なのか」をテーマに講演がありました。新保先生は今まで実践してきた保護者、地域との連携による学校運営について、小学校はまちづくりの拠点であるとの考えのもと、具体的な実践例を紹介しながら講演をされました。講演②では、毎日新聞論説委員の与良正男氏より「熱血！与良談義 これからの地域社会」と題して講演がありました。与良氏は現在テレビコメンテーターとしても活躍中で、現在の政局の話題を話された後、公民館と若者、民間のコラボレーションが必要であり、官と民が同等の立場で若い人たちをどう巻き込んで活動するかが、これからのカギであると話されていました。

熟議では、「地域に必要な公民館の役割」をテーマに、文部科学省初等中等教育局国際教育課長 神代浩氏をコーディネーターとして、四グループに分かれて進められました。

テーマに基づきながら、今年度、文科省で募集した「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」に応募することを仮定した事業の企画について熟議を行いました。A班は「若返り再生計画」として青年層の出会いの場としての合コンを公民館が企画し、参加者を中心にリーダーを養成する。B班は「地域振興支援プログラム」として、外国の方にも積極的に情報発信を行ったり、安心安全な作物を使用した食育や婚活イベント実施が提案されました。C班は、「公民館利用のあり方」として、公民館の利用は若者が少なく女性中心であるので、食育の場として青年交流を行い地域との関わりを深める、子ども達の学習サポート、学習支援の場とするなどの提案がされました。D班は、「青年の参画について」青年層のニーズを把握して事業展開をすべきである。また、様々な世代交流の場として色々な「屋台村」を設置し、多様な講座を提供することにより、住民が行きたくなる公民館施設とするべきであると提案がされました。



最後に、まとめとして神代氏より、公民館は昔は結婚式や成人式など人生の節目として公民館を利用した。公民館は堅苦しくなくてよいので、公民館が主体となり交流の場を作るべきである。さらに、ネット環境を使った公民館活動を積極的に展開し、情報発信を行うべきである。との助言がありました。

また、与良氏からは、公の仕事に携わりたいと考えている若者は大勢いるので、都会の若者を活用するための方策としてネットを使うと可能性がある。よそ者を自分のまちに連



れてくるためのネット活用を考えるべきである、と助言がありました。

以上、本年度も一日日程で開催しましたが、内容の濃い研修会となりました。

各市町村の公民館では、地域づくり、人づくりに積極的に公民館機能を発揮していると思われませんが、青年層の活動については、どこの市町村も低迷しているのではないのでしょうか。わがまちでは青年層の活動が盛んであるという事例がありましたら、是非公民館協会にお知らせください。

さい。全道・全国の公民館関係者に紹介してまいります。

**全国公民館連合会定期総会**

去る六月五日、全国公民館連合会の第二回定時総会が東京で開催されました。

北海道の松藤道公民館協会長の議長により総会が進められ、冒頭、鹿熊会長より「文科省では、本年度公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム事業に二億円の予算措置をした。本事業展開当たっては、従来の型にはまらない事業展開を期待している。二次募集もされるので、積極的に応募してほしい。各公民館において、人々、地域の絆をつなげる誇り、地域課題を解決するための活動を展開していきたい。」と挨拶がありました。

提案された議事は全て承認されました。また、公民館総合補償制度は、平成二十六年より補償額の引き下げを予定している旨の報告がありました。

## 全国公民館研究集会

inふるのに向けて

北海道公民館協会 理事

山本 将誉

『地域を育む公民館活動』〜コミュニティづくりに求められる公民館のあり方〜をテーマに第三十五回全国公民館研究集会inふるの北海道兼第五十七回北海道公民館大会の開催まで二ヶ月余りとなり、開催地実行委員会では、全道はもとより全国からの参加者をお迎えするべく準備に忙しい日々を送っているところです。私自身、開催地実行委員会事務局次長として関係機関団体等との連絡調整に追われており、この大きな大会を成功裏に終わらせるべく、とまどいや不安を抱えつつ、日々大会準備に追われています。

私事で申し訳ありませんが、実は十年前に「第四十七回北海道公民館大会」を富良野市で開催しており、その時も事務局を担当させていただききました。十年前とは規模も人数も内容も段違いです。そんな大会に携

われることを誇りに思いながらもまぐるしい毎日を過ごしています。もし、十年前の北海道公民館大会に参加された方で、今回また富良野にお越しただけの方がおられるのであれば、とても嬉しく思います。

このリサーチが皆さんのお手元の届くころには、もうすでに開催要項等が送付されており、来る十月の研究大会に思いを馳せている頃かと思えます。今回の研究集会は、「コミュニティ」をキーワードとして、戦後日本の復興の原動力となった住民自



治の礎を築き、地域の人々の学習活動の拠点として、あるいは住民のこのころの拠り所として大きな役割を果たしてきた公民館をもう一度見直すことにあると思います。

皆さんがご存知のとおり、現在わが国は経済や社会環境の急激な変化に伴い人と人とのつながりが希薄化し、地域の教育力の低下が指摘されているところですが、このような状況の中で、富良野に「集い」、富良野で「学び」、そして全国の公民館関係者と「つないで」、そして語ってください。きっと公民館活動活性化に向けてのヒントを得られると確信しています。

メイン会場となる文化会館は、昭和四十七年に開館し、もうすでに四十年以上経過している施設ですし、スーパー塾の会場についても小中学校の体育館を利用するなど、参加する皆様には様々な面でご不便をおかけすることが多々あると思いますが、実行委員一堂、皆さんをお迎えするおもてなしの心だけは忘れないよう研究集会の当日を迎えたいと思っています。



十月中旬といえば、天候によっては初雪の声も聴かれる頃です。長距離移動される方もおられるでしょう。どうぞ体調や交通事故に充分注意され、へそとワインとスキー、そして環境と演劇のまち富良野へお越しください。

富良野に来て見て聴いて感じて、そして感動を持ち帰ってください。実行委員一堂、皆さまのお越しを心よりお待ちしております。

**地域の特性を生かした  
生涯学習の取り組み**  
**壮瞥町子ども郷土史講座  
「火山と共生三十年」**

壮瞥町教育委員会生涯学習課

主幹 河野 圭

**一、はじめに**

壮瞥町は北海道の南西部、支笏洞爺国立公園に位置し、世界的にも有名な昭和火山を有する人口二千七百人の町で温暖な気候と美しい風景を望むことが出来る北海道を代表する観光地です。

昨年は本町において「第五十六回北海道公民館大会兼全国公民館連合会北海道ブロック大会」が開催され全道各地より約百名の公民館関係者の皆様にご出席いただき、「生涯学習における公民館事業のあり方」地域資源を生かした防災教育の取り組みをテーマとし、出席者、各関係者のご協力により無事終了することができましたことに改めましてお礼申し上げます。

壮瞥町では、この豊かで美しい自然環境を生かすために「第四次壮瞥町まちづくり総合計画」の基本計画や社会教育目標の中で「豊かな自然環境や歴史をいかし、郷土に誇りを持てるような人間の育成を図る」ことを掲げ、各ライフステージに合わ

せた学習活動の充実に努めています。壮瞥町という地域性を生かし、三十年という長期にわたって取り組んでいる事業を紹介します。

**二、「子ども郷土歴史講座」の概要**

壮瞥町子ども郷土史講座は、昭和五十八年に本町周辺の北海道を代表する風光明媚な有珠山や昭和火山、洞爺湖等の豊かな自然に恵まれた環境を舞台に、郷土の歴史や環境、防災等を学習することを目的にはじめられた児童対象（小三〜六年生）の事業です。今年度で三十年目を迎える、この歴史と伝統のある事業に毎年多くの町内児童が参加しています。本事業は「自分たちが生まれ育っている町の歴史やそれを取り巻く自然環境等について学習することにより、郷土に対する理解や郷土を愛する心を芽生えさせ、興味関心を深めるとともに、多様な学習機会を通して、お互いに助け合い健全な心の育成に努める。

また、町内だけではなく壮瞥町と深いつながりのある近隣市町にも目を向け、体験活動の充実を図る。」という趣旨で開催しています。

**三、各講座の内容(平成二十四年実施プログラム)**

○第一回講座「昭和火山登山学習」  
六月十六日(土)実施

講師：三松三朗氏(三松正夫記)

念館館長 参加者三十二名  
(登録児童・保護者等)



○第二回講座「有珠山探検」  
六月二十三日(土)実施

講師：岡田 弘氏(北海道大学名誉教授・壮瞥町防災アドバイザー)  
参加者数：三十一名(登録児童・保護者等)



○第三回講座「仲洞爺探検」  
七月七日(土)実施  
参加者数：三十二名(登録児童・保護者等)



○第四回講座「久保内探検」  
七月二十一日(土)実施

講師：久保内地域の皆さん  
参加者数：二十一名(登録児童・保護者等)



### 四、成果と課題

#### 成果

☆例年実施している昭和新山・有珠山探検は、毎年参加している児童にとっても新鮮で魅力あるプログラムです。両山とも特別な許可なしには入山ができず、火山環境学習という目的で実施が可能となるため、恵まれた講師陣による指導を通じて、児童は重点にある「火山と共に生きる町としての知識や理解を深める」とともに郷土の持つ自然や環境のすばらしさを体感することができました。

また、有珠山探検では今回で三回目となるが環境防災機構のJICA留学受け入れ事業と共催で実施しました。参加した児童にとっては、留学生との交流は国際交流の観点からも良い効果がありました。

☆第三回、第四回の講座は、町内各地域について、自分たちが住んでいない地域の学習をする内容とし、三回目の仲洞爺という地区での講座は、自治会の皆さんにご協力を得て、鉱山跡や小学校跡、神社、滝へ向かう川沿いを散策したり、この地域の絶景ポイントを訪れたり、自分たちの知らない場所での学習は新鮮であり驚きもあり同じ町内を知る良い機会となりました。

☆第四回目の講座は仲洞爺に続く地域学習会の第二弾を久保内という地域で実施しました。

最初に久保内駅跡を見学。今は公営住宅が建っているが昔は鉱石の運搬などで栄えていたという学習を行った後、山側にダムがあり、その川には日本ザリガニが生息している、日本ザリガニは清流にしか生息しないことの説明を受け改めて豊かな自然を感じました。その後、神社や地蔵尊などを見学しそれぞれの説明をうけました。

今回も久保内地域の方々に協力を願い実施したプログラムで、久保内地域のことを良く知る機会となり、また、地域資源を生かした講座となりました。

#### 課題

☆今後も本講座は継続実施しますが、家庭や学校との関わりや協力が年々希薄化している状況にあるので、三者の連携等を再考し、地域の子どもは地域で育てることの大切さを再認識する必要があります。

★例年実施している昭和新山・有珠山登山学習の他にも今回のように児童に地域の良さを再発見してもらう講座をいくつか検討し、年度毎にローテーション等で組み入れていくことも必要であると思います。

### 五、終わりに

壮瞥町子ども郷土史講座は昭和五十二年の有珠山噴火以降、三十年にわたり郷土の歴史や自然・環境・防災教育を推進するために実施され、これまでの受講児童数は述べ千五百人以上を数えます。

平成十二年の有珠山噴火の際には講座受講経験者である町職員が災害対応に当たる等、本講座は火山専門家から高く評価されています。

また二〇〇九年には壮瞥町を含む洞爺湖有珠山地域の「洞爺湖有珠山ジオパーク」は世界ジオパーク国内第一号として認定されました。今後こうした大自然や地域資源を活用しフィールドワークを通じて、火山と共生する本町の取り組みを強くアピールしながら、次代を担う子どもたちへの環境教育・郷土学習の推進を図っていききたいと思えます。



## 道教委通信

### 道民一体となって子どもを育む

公民館の関係者の皆様方には、日ごろから、公民館の運営はもとより、それぞれの管内の社会教育、生涯学習の振興・充実のために、御尽力いただいておりますことに、心から感謝を申し上げます。

さて、道においては、この六月に高橋知事、鷹野教育委員会委員長の連名で「ほっかいどう『学力・体力向上運動』」について道民の皆様に向けメッセージを出したところです。メッセージは、社会で自立して生きていく上で必要な学力や体力、望ましい生活習慣や規範意識を子どもたちに身に付けさせるため、道民全体で課題や危機意識を共有し、一体となって子どもたちを育むことを求めるものとなっております。

道教委といたしましては、本運動を進めるにあたり、メッセージの発信と同時に国から出された第二期教育振興基本計画の共通理念「社会全体の『横』の連携・協働」や「絆づくりと活力あるコミュニティの形成」の基本的な方向性をふまえ、地域全体で子どもたちを守り育てる体制の強化が重要であると考えております。

また、東日本大震災の経験を経て、

改めて地域の絆の重要性が認識され、住民が主体的に絆を構築し、強固なものにしていかなければならないという機運が高まる中、地域の人づくり・絆づくりを担ってきた社会教育の力に再び注目が集まりつつあります。

このように、社会教育の振興にとってプラスに働くこの時をチャンスと捉え、学校教育と両輪で施策を展開して参りたいと考えております。

関係の皆様におかれましては、住民参画の仕組みづくりや、財政上の問題など、公民館運営に関する多くの課題もあるかと存じますが、地域の方々の強い絆のもと、「多くの人が集い、学び、生きるための力を生み出す、まさに地域住民の夢をかなえる公民館」としての機能を発揮し、温もりと活力ある地域づくりに一層御尽力いただくことを願っております。また、メッセージの趣旨をご理解いただき、本運動への御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

(文責 生涯学習推進局生涯学習課)



## ほっかいどう「学力・体力向上運動」メッセージ

子どもたちが将来自立し、夢や目標を実現していくことは、私たち道民の共通の願いであり、地域の発展や活力に直結するものです。

全国調査の結果から、本道教育の現状として、子どもたちに基礎的な学習内容が十分に身に付いていない、脚力や持久力に関する運動が苦手、テレビやゲームの時間が多い、1日の家庭学習の時間が少ないといった課題があることが明らかになっています。

確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育む教育活動を充実させる中で、自立して生きていく上で必要な学力や体力を確実に身に付けさせることは、教職員をはじめとする教育関係者に課された責任です。

また、望ましい生活習慣や規範意識を含め、全ての子どもに健やかな成長を保障するためには、学校・家庭・地域で課題や危機意識を共有した上で、連携協働していくことが必要です。

子どもたちが夢や目標を実現できるよう、道民みんなで支えていきましょう

### 【地域の皆さまへ】

地域は、子どもたちにとって大切な学習の場です。子どもたちが、自立して生きていくために必要な力を身に付けることができるよう、地域の皆さまで支援していきましょう。

- 学校以外での学びや運動の機会をつくるなど、地域全体で子どもを育てましょう。
- 職場訪問や職場体験を受け入れるなど、学ぶことの意義やよさを伝える機会を増やしましょう。
- 地域の行事等において、知恵や経験を話したり、励ましの言葉をかけたりしましょう。

### 【保護者の皆さまへ】

家庭は、子どもたちにとって、温かい愛情に包まれた心のよりどころであり、望ましい習慣やルールを身に付ける場でもあります。家族での時間や生活を大切にするとともに、子どもに規則正しい生活習慣を身に付けさせましょう。

- 子どもの生活リズムを整えましょう。(早寝・早起き・朝ごはん)
- 家庭でのルールや目安を決め、しっかりと守るよう子どもと約束をしましょう。(勉強する時間、運動の時間、読書の時間、睡眠時間、テレビやゲームの時間、携帯電話などの使い方等)
- 学校での出来事の話聞き、励まし、ほめて自信をもたせましょう。
- 子どもと夢や目標について語り合いましょう。
- 親子で運動やスポーツに取り組みしましょう。

### 【児童生徒の皆さんへ】

皆さんが、夢や目標を実現するためには、こつこつと努力することが大切です。毎日の授業に真剣に取り組むとともに、家庭での勉強や運動などに進んで取り組みましょう。

- 時間を決めて、毎日、家庭学習(宿題、予習、復習)や読書をしましょう。
- 相手の顔を見ながら話を聞いたり、相手に応じた言葉づかいで話したりしましょう。
- 自分の考えや意見を、相手に伝わるように発表しましょう。
- ノートに、黒板の内容だけではなく、自分で考えたことや気付いたことも書きましょう。
- 休み時間や放課後、休日などに進んで体を動かしましょう。